

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほっとスマイル(だんらん)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ほっとスマイル (だんらん)		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字小沢47番地2		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/iindex.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&Jl_gvosvoCd=0390900033-00&PrCd=03&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※利用者さん、職員、家族が笑顔になれるよう、笑いの絶えない明るい雰囲気職場である。
 ※2ユニットの為合同で行事を行う事で利用者さん同士が交流できる機会を設けることができる。
 ※緊急時もお互いに協力できる。
 ※個々の生活リズムを大切にしながらも、利用者さん全員が参加できる行事を積極的に取り組んでいる。
 ※ボランティアを積極的に受け入れ、交流できる場を作るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの事業所理念「明るく笑顔の絶えないホーム」は、職員間の話し合いで定めたもので、実践にあたっては法人の経営理念11項目と併せて、職員一人ひとりが理念を意識しながら日々のケアに当たっている。また、裁縫ボランティアの皆さんには、現在、2ユニットの利用者18人分の防災頭巾を製作して頂いたり、事業所の避難訓練時に協力を頂いている。各ユニットの管理者は、それぞれの利用者の特徴や個性を把握し、個々に応じた支援に努力されている。なお、法人全体で事業運営において全職員が知恵を出し合いながら目標を達成する取り組みを行う、いわゆるアメーバ経営に取り組んでおり、各職員の意識の向上が図られケアの改善等に効果が現れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ほっとスマイル(だんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・更衣室・事務所・トイレに掲示し常に目に見える環境をつくり、実践できるようにしている。	法人の運営理念とは別に、職員で話し合い定めたホームの理念「明るく笑顔の絶えないホーム」を玄関や事務室、更衣室等に掲示している。また、法人の経営理念11項目を常に意識し、質の高いケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを積極的に受け入れ、近所の方に野菜を頂いたり、一斉清掃の前日に近所のゴミ拾いを利用者さんで行うなど、地域との交流を図っている。夏祭りの子ども神輿を園庭で見学している。	自治会に加入し総会にも参加し繋がりを深めている。地区の一斉清掃では、当日早朝の利用者の参加は難しいので、前日に利用者や近所の清掃している。今年初めて中学生の体験学習(5日間)を受け入れ、今後も継続したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ほっとスマイル通信の回覧、避難訓練時などの機会を利用して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方にも参加していただき、ほっとスマイル通信の写真を見ながら利用者さんの状況を報告し、ご意見やご要望を頂く機会にしている。	会議には、本人・家族も委員となっている。利用者の動静や敬老会等行事の実施状況、避難訓練時の消防署からの指導事項等が報告され、委員から感想や意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を利用している利用者さんの面会時や介護相談員の訪問時、運営推進会議の担当者などと情報交換を行っている。	推進会議に担当課から毎回職員が参加し、助言や時宜を得た情報を頂いている。介護保険の申請には、直接市に出向いている。また生活保護受給者の担当職員と連携を図っている。なお、介護相談の訪問を通じて相談、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。毎月のミーティング時にケアマネジメント委員会を行い、担当職員が前月の事故報告書とヒヤリハットを集計したものを発表し声掛けや支援方法などを話し合っている。同法人の他事業所の情報交換を行っている。	身体拘束をしないケアを職員勉強会で年に1度、研修テーマに取り入れている。また、担当職員が前月の事故報告書とヒヤリハットを分析結果を発表し、その際に声掛けや支援方法などを話し合い、行動抑制に繋がらないよう支援の方法などを考え、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会で取り上げ、虐待について理解すると同時に利用者さんに対しての言葉掛けや支援方法を職員同士話し合いながら虐待が行われないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を通して理解するよう努めているが、現在活用している利用者さんがいないため知識不足であり、更なる知識習得の為学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた環境で丁寧に説明するよう心掛けている。利用者さんやご家族の不安や疑問を解消したうえで契約できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・運営推進会議・行事に参加した時など話しやすい環境づくりに努め、ご意見・ご要望を聴く機会を設けている。行事の案内を通してご家族や地域の方々に参加していただけるようにしている。	家族から面会時や電話等で意見や要望を聞いている。利用者ごとに担当職員を決めており、一人ひとりに担当者のコメントを付けた手作りの「ほっとスマイル通信」を毎月送り喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アメーバ経営に取り組んでおり職員からの意見や提案を発表する機会があり、実践するようにしている。その他ミーティングなどで提案し、反映させている。	法人全体で知恵を出し合いながら目標達成等を目指すアメーバ経営に取り組んでおり、職員が意見や提案することで、職員も予算管理等、運営に関する意識の変化が見られ効果を挙げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力・性格を把握し、各々が向上心をもって働きスキルアップできるよう整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を通して職員の問題意識を明確にするとともに施設外の研修会にも積極的に参加している。職員の「今」に合った研修などを見極め参加できているがもう少し機会を増やしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アメーバ経営導入後法人内のグループホームと情報交換の機会が増えている。研修会や行事などで情報の共有をしている。法人外の交流は両警ブロック定例会などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームについて説明するとともに実態調査時施設での不安や要望を聴き安心して利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学を勧め不安に思っていること等要望を出来るだけ詳しく聞き利用者家族の思いに耳を傾け意向や思いを受け止め対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・担当ケアマネージャーからの情報を聴き職員間で情報を共有し「その時」必要な支援をしている。また意思疎通の困難な利用者の方に対しての関わりも積極的に行っており、行動する際は目配り・気配りしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して個人で出来ること・やりたい事を尊重しながら役割を見つけ、家事手伝いを中心に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月のほっとスマイル通信で近況報告をしている。通院の付き添いをお願いし、状態を理解して頂き、共に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・知人・友人の面会時ゆっくりお話が出来るよう支援している。馴染みの美容院へ行ったり、入所前に住んでいた自宅に行ったり出来るよう支援している。	親戚・知人・友人の面会時は、居室に案内しお茶や菓子を提供している。馴染みの理容所や美容院でお話するのを利用者は楽しみにしており送迎している。訪問理容を利用している方も、理容師と馴染みの関係になっている。ふるさと訪問として、入居前に住んでいた自宅に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格を把握し、関係が円滑になるよう目配りしており、利用者さん同士、声を掛け合える環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や意向を聞きながら出来る限りの支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるよう入浴時など1対1になる時にお話ししやすい環境をつくりご本人の希望を聞き出せるような雰囲気づくりに心掛けている。信頼関係が深められるよう日々の業務を行っている。	入浴や排泄の介助時など、他の人が居ないときに、昔のこととか、家族のこと等、思いを話してくれることが多く、信頼関係が深められる場として大切にしている。把握した事柄は、業務日誌等に記載し共有に努め、介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に限らず本人やご家族・担当のケアマネージャーから情報収集を行い、センター方式を利用しこれまでの暮らしを聴き把握している。また面会時にご家族などから伺い、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや業務日誌、連絡ノートやホワイトボードを活用し、状態を把握し職員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでカンファレンスを行い、利用者さんの状態を把握したうえでご本人やご家族の意見を反映させながら介護計画を作成している。	毎月のミーティングで、担当者のモニタリングを基にカンファレンスをし、評価・見直しをしている。また、担当者は、計画立案前に家族の意向を聞き、介護計画に反映させている。計画は、ケアマネが本人・家族に説明し、署名できる方は本人がサインしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたチェック項目を活用し、実践できたか、現状や気付いたことを毎月担当職員が記入している。職員連絡ノートやモニタリングなどを活用し情報を共有しており介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出を実施したり通院の付き添いの支援をしている。季節ごとのドライブや外出なども支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院・各種ボランティア(調理・オカリナ・踊り・裁縫)の受け入れを行い、一斉清掃に参加したり、のびのび楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医や訪問診療を利用し状態を報告し適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を継続しており、医師とは連携が保たれている。通院は原則家族が付き添っている。付き添いが困難のときは本人や家族の希望で訪問診療に変更する場合もある。受診の結果は、申し送りノートで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の勤務であるため看護師連絡ノートを活用し利用者さんの状態を報告し、周知徹底に努めている。通院介助をお願いし、かかりつけ医との連携を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の施設での生活の様子をアセスメントを元にし情報提供を行っている。入院中も面会を密に行い情報交換を行い早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いはできていないがその時に出来る支援(訪問診療や他施設の情報提供)をご本人やご家族に説明している。終末期の経験がある職員が少ないため勉強会を行い知識の習得が必要である。	重度化したときは、訪問診療による支援や特別養護老人ホーム等に紹介する旨を家族に説明している。なお、看取り対応については経験不足及び学習不足等の認識から今後の課題としている。	グループホームにおける看取り対応の期待が大きいことから、貴法人内の特別養護老人ホームで経験を学んだり、看取り対応指針の作成、訪問看護との連携の在り方、看取り対応の内外研修への参加などの取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。全員が対応できるようにしている。普通救命講習会を定期的に行うようにしている。急変時の対応について、施設内勉強会などで学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(日中・夜間想定、地震想定)を実施している。外部ベルを設置し地域の方の協力を頂けるよう働きかけている。	日中や夜間想定した避難訓練を実施しているが、暗くなってからの訓練において決められた避難場所に誘導する際に、交通量が多く横断に危険が伴うなど課題への対応策を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として一人ひとりを尊重し個々に応じた言葉掛け、接遇に心掛けている。	利用者へは、声の大きさ、調子等個々に配慮した声かけをしている。日々の生活の中で、利用者の経験や知識を教えられることがあり、人生の先輩として対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の決定や時間・服の選択・おやつ・食事など本人の希望を聞き、また話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望に沿って裁縫・食事作りの手伝い・家事手伝い・歌番組の鑑賞など一人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容・入浴時の着替えの選択など、日常生活の中で支援できるようにしている。敬老会には正装し、化粧をする機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの食べたいものを聞き献立に取り入れたり、嗜好を活かしながら準備・味見・盛り付け・配膳・食器拭きなど利用者さん中心に役割を担っている。	献立は当日、利用者に食べたいもの聞きながら、ユニットごとに決めている。食材は1食10品以上使用し、季節や行事に合わせた食事を提供している。職員も、利用者と同じ食卓で、会話しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に法人内の管理栄養士に献立を見て頂き助言を頂いている。兼職簿を見直し、食事量や水分摂取の把握に努め、好みのものを提供するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭予防に洗口液を使用したり一人ひとりに応じた対応を心掛け毎食後に行っている。口腔ケア困難者は介助を行い口腔内の残渣物除去を行っている。また夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを行い、排泄パターンの把握に努め、介助する際も傷つけないような言葉掛けを行うよう気を配っている。自分から訴えがでない利用者さんのサインを見逃さないようにしている。	排泄チェック表を参考に、個々に応じたトイレ誘導をしている。便秘に注意し、センナの煎じ液を利用して、体に優しい排泄に配慮している。布パンツ、リハビリパンツ、尿取りパット併用、紙おむつ、夜だけのポータブル使用等、多様な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時乳酸菌飲料、昼食時ヨーグルトを摂取し食物繊維の多い食材やセンナ茶を提供したり体操をするなど薬に頼らず排便できるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き希望に沿った支援をしている。入浴したくないときは無理に勧めず翌日に入浴できるよう支援している。状態に応じシャワー浴や足浴も行っている。	入浴は週2回としているが、利用者の体調や気分等の状態に応じ足浴・シャワー浴とする時もある。なお、疥癬の方の使用したマットは厳重に消毒するなど、清潔保持に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室やこたつなど休みたいところで休めるようにしている。日中の活動を通じて夜間に安眠できるよう支援している。夏季・冬季通して居室の温度管理にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の注意点や副作用について薬剤師からアドバイスを頂き、情報交換を行い、変化を早期発見できるようにしている。また個人のファイルに最新の薬の情報をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じたレク活動やドライブ・塗り絵・家事手伝いなどを支援している。日常生活の中で笑顔が自然に引き出せるような雰囲気づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出や、職員との買い物やふるさとめぐり・季節ごとのドライブや外出を楽しんでいる。ご家族との通院の帰りの外食も楽しみにされている。	家族との通院時の外食や職員との通院時のスーパーでの買い物など、外出の機会を活用し楽しんでいる。ドライブには中尊寺や厳美溪の桜、花泉の牡丹園等に出かけ、季節の感じを味わっている。ふるさとめぐりを支援したり、散歩が少ない利用者には、園庭でお茶したり、洗濯物を取り込む手伝いをしてもらったりして健康保持等に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの金銭能力に応じた支援をしている。ご家族の協力で自己管理されている方は外出時など自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望や必要に応じて電話をかけたりしている。手紙が届いたときは家族に渡し対応して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下などに季節を感じる装飾を行い、冷暖房の温度調節に気を配り、夏季は窓を開放しすだれを使用し肌でも季節を感じる工夫をしている。冬季は加湿器を使用し温度・湿度に気を配っている。また、こたつを設置し利用している。	共有のホールや廊下の壁には、体験学習の中学生と一緒に作成した飾りや、季節を先取りしたクリスマス仕様の雪だるま等、にぎやかに飾られている。また、作品は、法人の文化祭に出展している。加湿器やファンヒーターを併用し、室温、湿度の調節に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士がトラブルにならないよう居場所を確保したり自由に話ができるよう環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みが可能な事などを説明し使い慣れたものを使用できることを説明している。住み慣れた部屋にし、落ち着いて生活できるように布団やベッドなど好みのものを使用できるよう支援している。	居室には、エアコン、ベッド、マットレス、クローゼットが備え付けてある。寝具は持込で、小鞆、衣装ケースのほか、テレビ、ラジオ、時計等を持ち込み居心地よく配置している。居室は掃除が行き届き、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりに応じた福祉用具を活用している。居室前に写真と名前を掲示し浴室とトイレも表示しわかりやすいように工夫している。浴室・トレイ・廊下に手すりを設置しており安全に生活できるよう支援している。		